

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・ 利用者のニーズに合わせて、オンラインを使っのプログラムを設けていく。 ・ ひとり親や父親など多様な養育者が過ごせる場をさらにひろげていく。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	A
☆			

評価の理由(法人)

利用実績									
		R6				R7			
		本拠点	サテライト	合計	割合	本拠点	サテライト	合計	割合
子ども	0歳	3,469	3,500	6,969	30.6%	3,044	4,072	7,116	30.2%
	1歳	3,952	4,766	8,718	38.3%	4,408	4,517	8,925	37.9%
	2歳	1,380	2,288	3,668	16.1%	1,751	2,054	3,805	16.2%
	3歳	750	1,260	2,010	8.8%	730	1,193	1,923	8.2%
	4歳	422	460	882	3.9%	395	607	1,002	4.3%
	5歳	158	205	363	1.6%	281	279	560	2.4%
	その他	64	79	143	0.6%	133	92	225	1.0%
	子ども小計	10,195	12,558	22,753	100.0%	10,742	12,814	23,556	100.0%
大人	父	959	1,408	2,367	11.3%	1,270	1,795	3,065	12.8%
	母	8,572	8,948	17,520	84.0%	8,062	10,686	18,748	78.2%
	祖父	25	8	33	0.2%	2	21	23	0.1%
	祖母	87	134	221	1.1%	103	136	239	1.0%
	プレパパ	61	96	157	0.8%	132	172	304	1.3%
	プレママ	333	225	558	2.7%	790	804	1,594	6.6%
	大人小計	10,037	10,819	20,856	100.0%	10,359	13,614	23,973	100.0%
総利用者数		20,232	23,377	43,609		21,101	26,428	47,529	

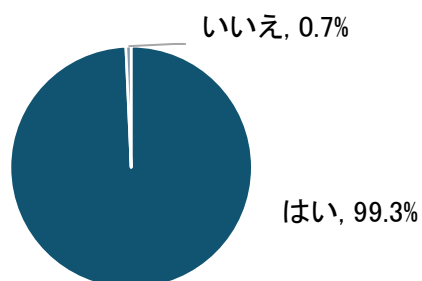
公園あそび

	R6	R7
実施日数	46	45
参加組数	520	343
一日当たりの平均参加組数	11.3	7.6

出張ひろば

	R6	R7
実施日数	31	34
参加組数	353	184
一日当たりの平均参加組数	11.4	5.4

何か困ったとき、スタッフに気軽に声をかけることが出来ましたか？



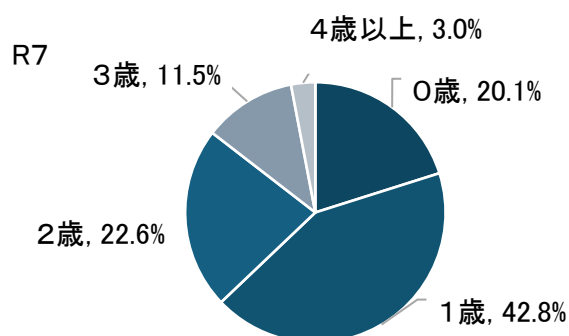
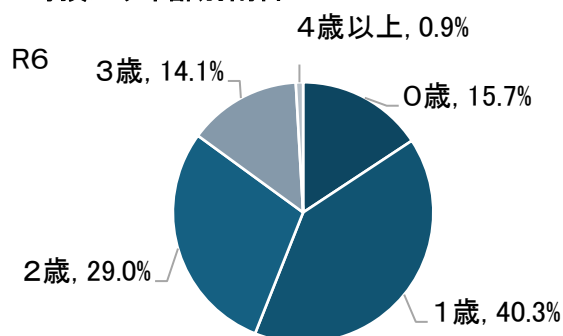
一時預かり

	R6	R7
人数	1,330	1,466
日数	233	241
一日当たりの平均人数	5.7	6.1

一時預かり利用理由

	R6	R7
1	リフレッシュ	リフレッシュ
2	家事	家事
3	子どもの友達・集団生活	その他

一時預かり年齢別割合



1 利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている

- ・ 初めて利用する親子が会話の輪に入りやすいように、共通点（月齢、地域等）のある方をつなぐパイプ役となった。利用者が孤立しないよう積極的な声掛けを行うことで安心して継続的に来所できるように配慮した。
- ・ ひろばやプログラムの様子をホームページに掲載するとともに、SNS でも積極的に情報発信を行い、初めて来所する際の不安感を和らげることができた。またサテライトでの「一時預かり」予約状況についてなども随時情報発信を行っている。
- ・ ベビーベットやクーハンを設置し、低月齢児と過ごすきょうだい児が遊びやすい環境を整えた。必要な時にはスタッフに声を掛けてもらえるように伝え、寄り添いながら見守ることができた。サテライトでは「ちょこっとお預かり」（※注1）の案内をし、きょうだい児を育てる利用者が遊びやすい環境をつくることができている。
- ・ 地域子育て支援拠点（以下、拠点）に入りやすい雰囲気づくりとして、利用者の協力を得て季節ごとの装飾を製作し、入口に掲示している。
また季節を感じられる取り組み（☆夏まつり、クリスマス会など）を実施し、親子が楽しみながら参加できるイベントを行った。
- ・ 安心・安全に遊べる環境をつくるために、受付扉には電子ロックを設置し、不審者の侵入防止対策を行った。また、毎月1回、地震・火災・防犯を想定した避難訓練を実施し、万が一の事態に備えている。
- ・ 様々な世代のボランティア（ジュニアボランティア）が活躍できる場面（☆）を増やし、温かい雰囲気を利用者と関わる機会を広げている。

（※注1）ちょこっとお預かり…利用者の声を受けて開始したお預かり。利用登録不要、予約不可、30分単位で利用できる点を特徴とする。養育者はひろば外へ出ることはできないものの、安全面での見守りを希望する場合に加え、「上の子（下の子）とゆっくり遊んであげたい」といったニーズにも応えるものであり、特にきょうだい児を複数連れて来所する養育者から好評を得ている。

2 多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている

- ・ 利用者が共通の悩みや考えを話し合えるような企画を考え、対象者を絞った企画「あひるクラブ」「双子ちゃん・三つ子ちゃんあつまれ～」を実施した。また、昨今の状況を踏まえ、家族の関わり方が多様化する中で、父親や祖父母も参加しやすい環境づくりを進め、「育休パパ」「ばあばの会」など、共通の悩みや情報を共有できる企画を行った。さらに、父親の育児参加を促進する取り組みとして「パパ DAY」「パパとあそぼう」を開催し、父親が気軽にひろばを利用し交流できる機会を広げることができた。
- ・ 「ぶれパパぶれママ講座」、「プレママ拠点見学会」、「赤ちゃんサロン」、「0才赤ちゃんあつまれ～」など、母子保健コーディネーターや横浜子育てパートナーと連携し、妊娠期から産後の孤立しやすい時期への支援を強化した。
- ・ 日本語が苦手な外国籍の利用者も安心して利用できるように、ひろば案内文を英語・中国語・韓国語・ベトナム語・優しい日本語に翻訳した。またタブレットに翻訳アプリを導入し、コミュニケーションを円滑にする体制を整えた。

3 養育者と子どものニーズ把握の場になっている

- ・「拠点が遠い」「近くに遊びに行ける場が少ない」など利用者の声を受け、拠点利用が難しい地域の子育て支援施設と共に☆「出張ひろば」を開催した。また、横浜子育てパートナーが出張する「しおんカフェ」も開催した。さらに「公園での遊び方がわからない」など利用者の声を受けサテライトの近隣の公園に増設し、全6カ所の公園で★「そとあそび」を開催している。

☆「出張ひろば」…左近山地域ケアプラザ・南まきが原自治会館・笹野台地域ケアプラザ・しおんカフェ

★「そとあそび」…マインコーポ二俣川広場・万騎が原公園・笹野台二丁目公園・本村町第一公園・鶴ヶ峰公園・バタフライガーデン

- ・利用者とスタッフの会話から拾ったニーズはスタッフ会議で共有し、またプログラム開催後にはアンケートを実施することで、利用者の声を継続的に把握している。こうした意見をもとに、幼稚園・保育園に通う子どもが短時間でも利用できるよう、通常は閉館している17時30分から「夕方ひろば」(注2)を開催した他、年齢の高い子どもが参加できるようなプログラム「キッズクッキング」「はじめてのお箸講座」「虹染めエコバック」「牛乳パックで電車をつくろう」「プラレールあそび」を実施した。

(注2)「夕方ひろば」…夕涼み会(入館者数:本拠点 105名、サテライト 67名)

- ※プログラムの参加人数…キッズクッキング(参加者数:本拠点 5名、サテライト 9名)パパと牛乳パックで電車を作ろう(参加者数 7名) はじめてのお箸講座(参加者数: 11名、サテライト 7名)プラレールあそび(4回実施 参加組数累計 62組)
- ・0歳児向けのプログラムをきっかけに交流を深めた母親たちから、月齢の近い親子が出会える場をつくりたいという声が上がった。こうしたニーズを受けて、自主的に企画された「ひなママ企画のおさがり会」等の実施に向け、拠点として周知や運営面で協力をすることができた。
- ・「まだ使えるものを活かしたい」というニーズから本拠点では「リサイクルマーケット」を実施し、家庭の負担軽減に寄与するとともに、受け渡しを通じて利用者同士の交流が生まれ、子育ての悩みや情報交換が自然と行われる場となった。サテライトでは「おさがりコーナー」を設けている。

4 親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている

- ・多様な親子が安心して遊び込めるよう、エリア分けを意識し、大小の遊具を配置している。本拠点では、靴を履かずに庭でそのまま遊べる「中庭あそび」夏季には「水遊び」を実施し、外気に触れる大切な場を提供した。
サテライトではひろばの中心に大型遊具を設置し、大・小の滑り台をつかって月齢に応じた体の動きを楽しめる場を提供した。
- ・子どもの成長を祝う「お誕生日会」や、季節の行事として楽しめる工作やイベントを開催し、年間を通して季節の行事を体験できる機会を提供した。産後間もない親子に向けたプログラムでは、他の親子と関わることで悩みを共有し、当事者同士が自然に会話できる場となっている。孤立しがちな子育てにおいて、育児不安の軽減につながっている。
- ・0才・1才だけでなく、幅広い対象児が遊びに来やすい環境づくりを心掛け、プログラムを企画した。また、区の保健師によるミニ講座「トイレトレーニング」「生活リズム」や専門相談員への相談を通じ、悩みに向き合いながら学べる機会にもなっている。
- ・「横浜市旭区・ダウン症・障害児者 親の会ふくっこ」や「親子サークル遊」などの子育ての活動を周知し、会の支援をした。

5 一時預かり

- ・ 一時預かりは 令和6年度以降 ほぼ飽和状態が続いており、受け入れ人数に大きな変動は見られない。一方で、予約が埋まるまでの時間は年々短縮しており、一時預かりの周知が進んだことに加え、全体的な需要の高まりがうかがえる。
- ・ これまで予約はアナログ方式で受け付けており、電話や対面による直接的なやり取りの利点も感じられていた。しかし、予約申込みが集中する時期には混乱が生じる可能性が高く、円滑な運用を確保するため、令和8年度中に WEB 予約へ移行することとした。
- ・ 預かり利用児を年齢別にみると、いずれの年度においても1歳児の割合が最も高い。動きが活発になり、自己主張もみられ始める時期であり、養育者にとって育児ストレスや負担感が増す傾向がある。また、授乳間隔が長くなったり、離乳することで、母乳育児中であっても比較的預けやすくなることが、利用が増える要因となっていると考えられる。
- ・ 近年は満3歳で幼稚園に入園する児が増加していることもあり、利用児の多くは0～2歳児が占めている。さらに、乳児期から継続して利用していた児が、入園後も夏休みなどの長期休暇に引き続き利用するケースがみられるようになり、これが4歳児以上の利用増加につながったと推測される。
- ・ 一時預かりの利用理由としては、開始当初から「リフレッシュ」が最も多く、次いで「家事」となっている。また、「子どもの友だち・集団生活」を求めて利用するケースもみられるが、本事業では必ずしも近い年齢の子ども同士で預かるとは限らず、児同士がともに遊ぶ状況が常に生まれるわけではない。ただし、異年齢児保育であるがゆえに、年長児が年少児を思いやる姿が多く見られ、兄弟児が少なくなる昨今においては大切にしたい関わりである。

なお、昨年度「その他」が増加した背景には、「ちょこっとお預かり」の周知が進んだことが影響していると考えられる「ちょこっとお預かり」は 昨年度だけで約 90 件の利用があり、その利用理由の多くが「その他」に分類されている。
- ・ 一時預かりについては、比較的長時間の利用を希望する利用者が多いことから、子育てサポートシステムとの連携を進めている。さらに、ひろば利用時に生じる負担(きょうだい児の同伴、育児相談中の保育、利用者の育児疲れ等)を軽減するため、「ちょこっとお預かり」を実施し、必要な場面で柔軟に支援できる体制を整えた。

評価の理由(区)

1 利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている

- ・ 母子健康手帳交付時や乳幼児健診、赤ちゃん教室、家庭訪問等で拠点を積極的に紹介した。
- ・ ひろばの利用状況や、初めて利用する人及び孤立しがちな養育者への迎え入れの工夫については毎月の行政定例会で確認をし、よりよいひろば運営のため拠点から疑問点や相談事項があった際には必要時区からも助言を行い、利用者を温かく迎え入れる雰囲気づくりに努めた。

2 多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている

- ・ 多様な養育者及び子どもの受け入れに関して助言や協力を実施した。
- ・ 拠点で実施する交流企画のチラシは区役所3階待合スペースにて配架し周知を実施。必要に応じて朝会でも保健師間で共有した。
- ・ 両親教室やパパカレンダー等を通じて父親への周知強化を図ったほか、外国籍の養育者に対しても個別に拠点の紹介を行い、その利用にかかる橋渡しをした。

3 養育者と子どものニーズ把握の場になっている

- ・ 拠点と区が把握した養育者の現状やニーズ、利用者の声を行政定例会等で共有し、イベントの企画や見直しについて拠点とともに検討を行った。
- ・ 一時預かりの WEB 予約運用に向けて、拠点が把握した利用者の声を市役所にも共有するなどの調整を行った。

4 親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている

- ・ 専門相談や健康教育を通して親自身が学べる機会の提供や、親同士が相談や交流できる場づくりの後方支援、助言を行った。
- ・ 地域とのつながりが希薄な養育者には、区の保健師や支援員等が拠点に同行するなどして、繋がるハードルを下げる支援も行った。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・ 区や拠点で行っている事業等を通じて、妊娠期から切れ目なく拠点に繋がるための支援を行った。
- ・ 父親や外国籍家庭など、多様な養育者が利用しやすい環境づくりが進み、居場所としての機能が発揮できていると考える。
- ・ 鶴ヶ峰にサテライトが開設され、拠点として2つの施設を持つ体制となったことで、これまで立地の関係で拠点に足を運びづらかった親子にも新たな居場所を提供できた。その結果、旭区内に限らず、隣接区を含む広い範囲の親子の利用につながっている。さらに、2つの施設が連携し運営できることが、拠点としての大きな強みとなった。
- ・ 利用者との関わりの中からニーズを把握し切れ目ない支援につながるようプログラム構成を行うことができた。さらに保育園や幼稚園に通う年齢の高い子どもに向けたプログラムを行うことができた。継続的な利用につながるような仕掛けが必要だと感じている。

(課題)

- ・ 一時預かりの WEB 予約の定着や、配慮や支援が必要な養育者が継続して安心して利用できる個別支援の充実について、引き続き区と拠点で連携していく必要があると考える。
- ・ 新米パパ、双子の集まり等親同士の交流を行う事業の後に、そのつながりを継続的に持てる仕組みづくりを作っていく必要があると考える。
- ・ 年齢の高い子どもが継続して利用できるような仕掛けが必要だと感じている。(日曜開催、延長ひろば、ちょっぴりお兄さんとお姉さんのあそびのひろば)

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・ 父親からの相談も増えてきている為、父親同士の学び合える場を設定していく。 ・ オンラインを使った講座やプログラムを取り入れ、拠点に来ることができない親子の相談も受けられる体制づくりに努める。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A

評価の理由(法人)

相談実績

		R6	R7
本拠点	相談件数	1,529	1,605
	相談人数	1,168	1,282
	拠点を利用した大人の人数(再掲)	10,037	10,819
	全利用者に占める相談者の割合(%)	11.6	11.8
サテライト	相談件数	1,133	1,014
	相談人数	1,014	916
	拠点を利用した大人の人数(再掲)	10,359	13,614
	全利用者に占める相談者の割合(%)	9.8	6.7
合計	相談件数	2,662	2,619
	相談人数	2,182	2,198
	拠点を利用した大人の人数(再掲)	20,396	24,433
	全利用者に占める相談者の割合(%)	10.7	9.0

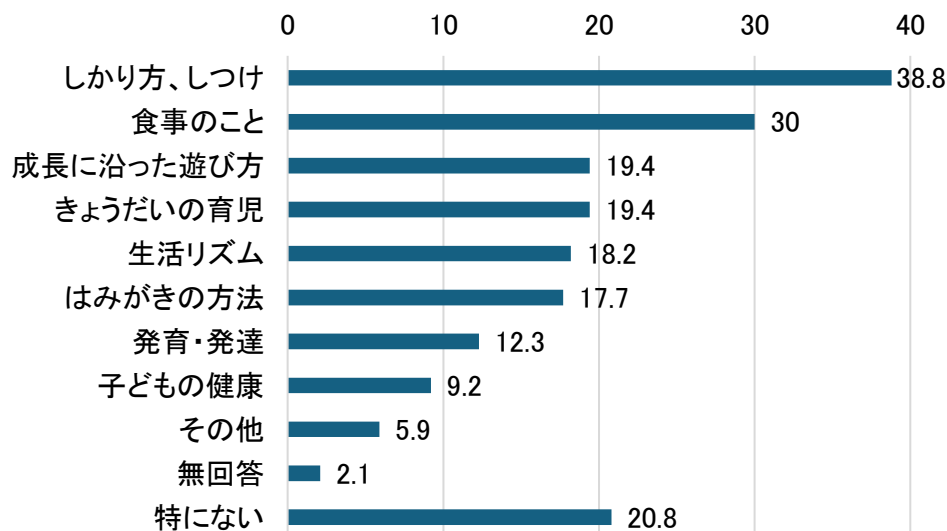
相談内容(上位4項目)

		子どもの生活習慣	親自身	子どもの発育	就園就学
R6	本拠点	259	331	218	208
	サテライト	283	201	164	139
R7	本拠点	289	425	168	245
	サテライト	264	166	137	132

専門相談員への相談実績

		R6	R7
本拠点	公認心理師	39	23
	管理栄養士	50	33
	助産師	36	25
	保健師	2	2
	保育教育コンシェルジュ	12	15
サテライト	公認心理師	46	46
	管理栄養士	43	54
	助産師	56	49
	保健師	6	5
	保育教育コンシェルジュ	13	11

子育てに関して困っていること(旭区子育てに関するアンケートより)n=423 複数回答可 (%)



「その他」の内訳

項目				件数
トイレトレーニング				9
夜泣き	動画、ゲームとの付き合い方			2
癇癢	赤ちゃん返り	卒乳	遊び場	1
性教育	税金	どもり	寝かしつけ	
肌荒れ	ママがいいが強すぎ	復職		

1 養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている

- ・ 拠点の内外(出張ひろば・そとあそび)で幅広く周知が進み、ひろばが気軽に相談できる場として認識されている。
- ・ 日常的な会話を通してスタッフが利用者に寄り添い、その関りが問題解決につながっている。
- ・ 誰もが気軽に相談できるよう、親子の気持ちやわらぐような対応を心掛け、スタッフとの信頼関係の構築に努めた。さらに、傾聴を大切にし、相談者の気持ちに寄り添う姿勢を意識することで、安心して話せる雰囲気づくりにも取り組んだ。
- ・ プライバシーにも配慮した個別相談ができる相談室を設け、環境を整えている。必要に応じて「横浜子育てサポートシステムのひろば預かり」「一時預かり」「ちょこっとお預かり」などの預かりを活用し、子どもと分離した相談に対応した。
- ・ 預かり中の子どもの様子を伝える中で、養育者から相談を受けることも多く、その都度傾聴し、必要に応じて横浜子育てパートナーに繋ぐなどの連携を行った。
- ・ ひろばに関わるスタッフは、横浜子育てパートナーと共に毎日カンファレンスで振り返りを行い、月1回の「定例ひろば部会」(注1)での共有や、スキルアップ研修(対人支援・傾聴・発達など)、専門相談員を交えた研修などを通して、相談支援の向上を図っている。
- ・ 利用者のニーズを踏まえ、言葉の発達に不安を抱える利用者に向けた「ことばの種」や保育園の就園活動する親子に向けて「保育園ってどんなところ？」などのプログラムをオンラインで実施した。
- ・ 父親同士が自然と会話の中から学び合えるような育休に特化したパパ向けの企画を R8年度から実施を予定している。

2 相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができている

- ・ 子育て中の不安を軽減するため、公認心理師・助産師・管理栄養士による毎月の専門相談や、保健師・保育教育コンシェルジュによる定期相談の機会を設けた。さらに、他の相談機関の情報提供を行い、利用者のニーズに応じた講座(心理士さんから学ぼう・CARE 講座(注2)・離乳食づくり講座・防災講座・救急救命講座など)も実施した。
- ・ 継続的な支援が必要な利用者については、スタッフ間で情報を共有するとともに、横浜子育てパートナーと連携しながら継続的に寄り添い、見守りを行っている。区への相談が必要な相談者が、横浜子育てパートナーを通じて区の保健師とも情報共有をし、対応方法について助言を受けている。関係機関につながった後も、横浜子育てパートナーや保健師と連携し、継続的な支援を続けている。

(注1)ひろばスタッフ定例会

(注2)「CARE 講座」とは子どもと大人の絆を深め、より良い関係を築くためのプログラム。2歳前後の子をもつ親に向けて、子どもとの関係を築く際に大切なコミュニケーションについて体験的に公認心理師から学ぶ。

評価の理由(区)

1 養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている

- ・ 行政定例会で拠点から対応方法に関する相談があった事例について助言を行い相談支援の資質向上に努めた。
- ・ 家庭訪問や窓口での手続き時に、拠点に安心して相談できるスタッフがいることを周知したほか、子育て世代が躓きやすいポイントをテーマにした出張相談を行うことで利用者が相談しやすい仕組みづくりに努めた。

2 相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています

- ・ 各種相談機関との連絡調整を行い、拠点と連携して支援を提供している。区と拠点の行政定例会で利用者の状況について共有し、支援が必要なケースは相談連絡票を活用して区こども家庭支援課の地区担当保健師と情報共有を図った。
- ・ 母子保健コーディネーターや助産師とも連携し、妊娠中のひろば見学会の実施等妊娠期からの継続的な支援を実施している。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・ 拠点との行政定例会や相談連絡票の活用により、支援が必要な養育者に対してスムーズに区や関係機関へ引き継ぎ、切れ目のない支援を行う体制が定着している。
- ・ 保健師だけでなく助産師や母子保健コーディネーターとも連携することで妊娠期から支援が必要な養育者へ継続的支援を行うことができています。
- ・ 支援が必要な養育者に対し、横浜子育てパートナーを通じてスムーズに区や関係機関への引き継ぎ、切れ目のない支援を行う体制が定着している。

(課題)

- ・ 複雑化、多様化する相談ニーズ(発達支援、ひとり親、外国籍等)に対し、拠点の相談スタッフがより安心して対応できるよう、拠点内部の振り返りや区との行政定例会、研修等を通して、専門的な知見を学ぶ機会を充実させる。

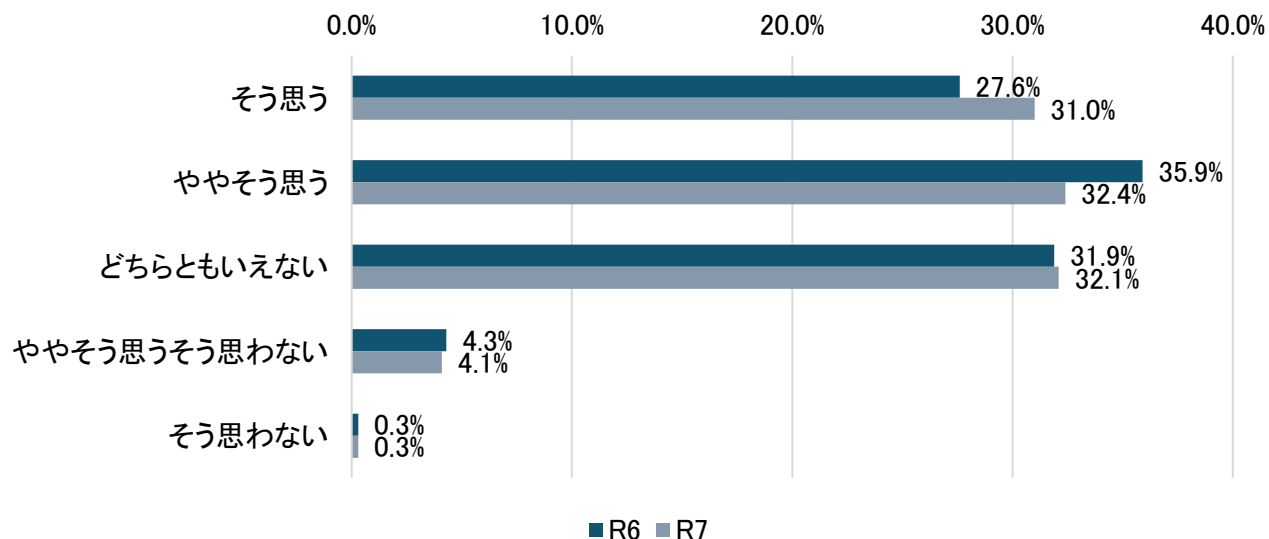
振り返りの視点

- ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。
- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)																																	
		法人	区																																
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・ 養育者や担い手が情報収集や提供の企画に関われるような機会を作っていく。情報ボードについては、設置場所の工夫や気軽に書き込んでよいことの周知をさらに進めていく。	A	A																																
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	A																																
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	B																																
☆																																			
評価の理由(法人)																																			
ひなたぼっこ通信 月平均発行部数		【配架場所】																																	
	<table><tr><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>発行部数</td><td>3,000 3,000</td></tr></table>	R6	R7	発行部数	3,000 3,000	区役所、親と子のつどいの広場、地域サロン、地域ケアプラザ、地区センター、保育園・幼稚園、近隣自治会、二俣川駅、鶴ヶ峰駅、希望ヶ丘駅、商業施設 など																													
R6	R7																																		
発行部数	3,000 3,000																																		
Instagramの活用状況(R8年6月末時点)																																			
	<table><tr><td>フォロワー数</td><td>累計投稿数</td></tr><tr><td>本拠点</td><td>1,036 923</td></tr><tr><td>サテライト</td><td>1,005 762</td></tr></table>	フォロワー数	累計投稿数	本拠点	1,036 923	サテライト	1,005 762																												
フォロワー数	累計投稿数																																		
本拠点	1,036 923																																		
サテライト	1,005 762																																		
パマトコの活用状況(R8年6月末時点)		【ナレッジ掲載内容】																																	
	<table><tr><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>ナレッジ数</td><td>309 455</td></tr></table>	R6	R7	ナレッジ数	309 455	拠点開催プログラム、出張ひろば、外あそび、避難訓練など																													
R6	R7																																		
ナレッジ数	309 455																																		
「ひなたぼっこ」「ひなたぼっこサテライト」の様子やイベントを何で知ることが多いですか。n=300 複数回答可																																			
	<table><tr><th colspan="2">R6</th><th colspan="2">R7</th></tr><tr><th>項目</th><th>%</th><th>項目</th><th>%</th></tr><tr><td>1</td><td>ひなたぼっこ通信 54.1</td><td>Instagram 55.3</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>Instagram 43.6</td><td>ひなたぼっこ通信 47.4</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>ホームページ 40.0</td><td>ホームページ 30.7</td><td></td></tr><tr><td>4</td><td>ひろばの掲示板 23.6</td><td>ひろばの掲示板 21.8</td><td></td></tr><tr><td>5</td><td>スタッフから 12.5</td><td>スタッフから 11.3</td><td></td></tr><tr><td>6</td><td></td><td>パマトコ 10.6</td><td></td></tr></table>		R6		R7		項目	%	項目	%	1	ひなたぼっこ通信 54.1	Instagram 55.3		2	Instagram 43.6	ひなたぼっこ通信 47.4		3	ホームページ 40.0	ホームページ 30.7		4	ひろばの掲示板 23.6	ひろばの掲示板 21.8		5	スタッフから 12.5	スタッフから 11.3		6		パマトコ 10.6		
R6		R7																																	
項目	%	項目	%																																
1	ひなたぼっこ通信 54.1	Instagram 55.3																																	
2	Instagram 43.6	ひなたぼっこ通信 47.4																																	
3	ホームページ 40.0	ホームページ 30.7																																	
4	ひろばの掲示板 23.6	ひろばの掲示板 21.8																																	
5	スタッフから 12.5	スタッフから 11.3																																	
6		パマトコ 10.6																																	

情報コーナーは必要な情報を入手しやすいですか？(n=300)



1 区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。

- ・ 地域サロンや親と子のつどいの広場に、拠点で集約した情報を送付して支援に役立ててもらっている。
- ・ 関係機関から情報を集約し、内容毎にコーナー分けして掲示している。情報コーナーで閲覧している養育者にはスタッフが様子を見ながら声をかけ、情報の補足を行っている。また、経済面やひとり親に関する相談先はトイレなどに配置している。
- ・ 利用者の個人情報に配慮しながら情報発信を行った。
- ・ ホームページは事業内容や開催場所などの情報を集約する場所として活用し、Instagramは拠点内の活動の様子をタイムリーに配信して拠点の雰囲気や活動内容を周知するために活用している。
- ・ 横浜子育てパートナーが社会資源に関する情報収集を行い、利用者のニーズに合わせた相談先及び支援先の情報提供に努めている。
- ・ 日本語の苦手な養育者に向けて英語・中国語・韓国語・ベトナム語・やさしい日本語のひろば案内を作成したことにより、情報を得られることの周知につながった。

2 子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。

- ・ 様々な媒体(通信・ホームページ・Instagram・区の広報・タウンニュースなど)とネットワークを活用して、子育て支援情報を収集・提供していることを周知した。
- ・ 横浜子育てサポートシステムの提供会員を募るために二俣川駅構内で周知活動を行った際、拠点についての周知も同時に行った。

3 拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。

- ・ 地域(幼稚園・保育園・親と子のつどいの広場・地域サロン・地域ケアプラザなど)から届けられる情報の周知にも積極的に協力した。また地域ケアプラザの通信に、拠点の出張ひろばの情報を掲載してもらった。養育者自身が企画したプログラムにも周知協力を行った。
- ・ 拠点プログラムに現・元利用者に参加してもらった際、協力者自身の発信ツールにも周知を依頼した。
- ・ 情報ボードの利用はなかなか進まない。書き込みをしやすい環境づくり、あるいは代替となるツールについて検討を続ける

評価の理由(区)

1 区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている

- ・ 区が把握している子育て支援(制度や施設等)に関する情報を拠点へ提供した。
- ・ 転入手続き時や母子健康手帳交付時、乳幼児健診や保健師による家庭訪問等において、拠点の情報収集、提供機能を周知した。

2 子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている

- ・ 区役所内掲示板や広報よこはまあさひ区版、区民まつり、横浜市子育て応援アプリ「パマトコ」等を活用し、拠点の情報収集、提供機能について区民へ広く周知した。

3 拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている

- ・ 拠点の情報収集・発信の仕組みに養育者や地域の担い手が関わる工夫について確認や助言を行った。
- ・ 横浜市子育て応援アプリ「パマトコ」の活用をはじめとした情報提供のデジタル化に向けて拠点と取り組んだ。
- ・ 情報発信の担い手で適切な人材を見つけることができていないため、引き続き拠点と連携して人材確保に向けて取り組む必要がある。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・ 区と拠点が連携し、横浜市子育て応援アプリ「パマトコ」等のデジタルツールを活用した情報発信が進み、幅広い区民へ迅速かつ的確に子育て情報が届く体制を整備することができた。

(課題)

- ・ デジタルツールの利用に不慣れな養育者や、外国語での情報が必要な区民に対しても必要な情報が確実に届くよう、紙媒体も含めた情報発信の工夫をさらに検討していく必要がある。
- ・ 拠点に関わる地域の方や養育者が拠点に情報を届けることができるよう区からも周知を行う必要がある。
- ・ 拠点が構築したネットワークを活用して、養育者の参画を得ながら、子育て情報を収集・発信できる仕組みづくりに引き続き取り組む必要がある。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ ネットワークを活かして情報を収集し、を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 様々な子育て支援情報を拠点が集め、提供していることを広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・ 従来の顔の見えるコミュニケーションも大切にしながら新たにオンラインの有効活用も検討していく。また、既存の地域子育て支援関係団体とつながるきっかけを作り、よりきめ細やかなネットワーク構築を推進していく。	A	A
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	B
☆			

評価の理由(法人)

開催及び参加実績

会議・連絡会	年間回数	交流・地区活動	年間回数
旭区子育て支援連絡会	4	保育園マルシェ	4
旭区健康づくり団体連絡会	2	あひるクラブ(パパの会 2回含む)	14
旭区子育て広場連絡会	3	横浜子育てサポートシステム会員交流会	2～3
旭区児童虐待・DV 防止連絡会	2	子育て世代の健康チェック	2
保育園施設長園長全体会	2	地域サロン交流会	1
東部エリア施設長園長会	3	地域カフェ	4
西部エリア施設長園長会	2	こども食堂	2～3
エリア別連携 全 13 会場	1～2	子育て世代の食生活	2
鶴ヶ峰地域支えあい連絡会	2		
鶴ヶ峰地区こども連絡会コア会議	2～3		
図書活動推進施設連絡会	2		
区民利用施設職員連絡会	3		

1 地域の子育て支援関係者を活性化するためのネットワークを構築・推進している

- ・ 旭区子育て支援連絡会・サロン交流会・広場連絡会を開催し、また保育園施設長園長全体会・東部エリア施設長園長会・西部エリア施設長園長会に参加し、情報や課題を共有し、顔の見える関係づくりに努めた。
- ・ 保育園・幼稚園・地域ケアプラザ等との連携を深めた。
- ・ 連携を深めるために、オンラインによる会議を活用しつつ、対面での会議を多く開催した。
- ・ サロン交流会やひろば連絡会を開催し、子育て家庭が抱える課題に対応する職員のスキルアップ等、関係機関が抱える課題の把握に努めた。
- ・ 地域ごとの情報を共有し、支援の充実を図る為に、エリア別連携を開催した。改めてエリア別連携の目的等を拠点・区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザで確認をした。
- ・ スタッフが各地域のイベントに参加し、自治会や民生委員等地域の方々と顔の見える関係を作った。
- ・ 地域で、カフェや子ども食堂等の活動をしている方達と情報を共有し、周知等の協力をし合った。
- ・ 近隣の小学校の授業を通して連携に努めた結果、ひろばの環境整備に関わってもらうことが出来た。

- ・保健活動推進員や食生活等改善推進員と共にイベントを行い、地域の中の活動に繋げている。
- ・近隣の歯科医院やドラッグストアの方がひろばでミニ講座を開いてくれる等、協力をしてくださる機械を設けた。

2 ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる

- ・地域の方や養育者が活躍できる場の提供に努めた。(わくわくフェスティバル・周年お祝い会等)
- ・地域情報を収集し、夕方や休日の居場所を求めている養育者のニーズにあわせ居場所を紹介した。(活動ホームふたまたがわ等)
- ・養育者に、近隣の地域ケアプラザも親子の居場所として利用できることを周知している。また、養育者と共に、他施設での避難訓練にも参加する等、連携もしている。
- ・ひろば内に用意した旭区の地図に、ポストイットを貼る等して、地域情報(夏祭り・運動会等)を周知し、利用者が地域での行事等に参加しやすいようにしている。
- ・避難訓練等を通して自治会の案内や活動を紹介し、「地域で支え合い、暮らすこと」についても触れる機会を設けている。

評価の理由(区)

1 地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している

- ・旭区子育て支援連絡会を拠点と共に事務局として全地区で開催し、地域の関係者が子育てに関する現状や課題を共有、協力して地域支援活動を行えるよう内容などの検討をした。
- ・サロン交流会やひろば連絡会等に参加し、拠点と共に地域のニーズを把握した。
- ・令和6年度からは、子育て支援活動を推進するため、日常生活圏域での子育て支援の現状や課題の把握、課題への対応を協議するために、地域ケアプラザ、旭区社会福祉協議会、旭区地域子育て支援拠点、旭区役所の4機関で構成された連絡会議を拠点と区役所が中心となり実施している。

2 ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる

- ・拠点がネットワークを活かして利用者を身近な子育て支援の場につなげられるよう、子育て支援者や子育てサロン、保育園との連絡調整等について助言・協力を行った。
- ・わくわくフェスティバルの開催やひなまつ会企画など、養育者が活躍できる場づくりの助言・協力・周知を行った。
- ・地域の支援者との連携をより一層充実できるよう、拠点と共に働きかけを行う必要がある。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・旭区子育て支援連絡会やエリア別連携会議等を通じて、子育て支援に携わる関係者同士の連携が強化され、組織横断的な見守り・支援体制の基盤を整えることができた。
- ・保健活動推進員や食生活改善推進員と共に利用者に向けたイベントを開催するなど、顔の見える関係を作ることができた。

(課題)

- ・地域ごとの課題(活動の担い手不足等)にきめ細かく対応するため、引き続き、地域の多様な社会資源を巻き込んだネットワークの充実を図る必要がある。

振り返りの視点

ア 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

イ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

ウ 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、子育て支援分野に限らず、様々な社会資源と連携・協力した取組を実施しているか。

エ 養育者や子育て支援活動に関心のある人を身近な地域の子育て支援の場や地域の活動につなげているか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	・ 様々な世代が、特技を活かした子育て支援をできるような企画を取り入れる。子育て中の当事者が参加できるボランティア活動を、アンケートや利用者の声から検討し発掘していく。 ・ ボランティア活動に興味を持つ人が増えるように、ホームページや通信等を利用して、ボランティアの声ややりがいを発信していく。 ・ 男性が安心して子育てに取り組めるような機会を作っていく。	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		A	B
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	A
☆			

評価の理由(法人)

ボランティア活動

	R6		R7	
	日数	延べ人数	日数	延べ人数
見守り	135	164	132	187
読み聞かせ	65	96	61	84
その他	23	97	52	180

見守り…ひろば、外あそび、あひるクラブ

読み聞かせ…絵本の読み聞かせ、ふれあい遊び、音楽など

その他…折り紙、学生とのふれあい(親子ボラ)、ジュニアボランティア、大掃除など

ひなまま企画(利用者自主企画)

	R6		R7	
	回数	延べ人数	回数	延べ人数
拠点利用	2	67	4	183
外遊び	2	40	2	24

1 地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。

- ・ 地域サロンと拠点の連携を深めるためにサロン交流会を開催し、学習会や情報交換を行った。支援者が困っている時に横浜子育てパートナーが出張・電話相談を行えることを周知した。
- ・ 地域サロンの利用者が減少しているとの相談を受け、活動の周知に協力した。
- ・ 地域で子育て支援に携わっている方たちに向けて、絵本、紙芝居、パネルシアターなどの貸出しを行った。
- ・ 変化している子育て環境に戸惑いを抱えている利用者の声から「ばあばの会」を開催し、支援について学んだ。
- ・ 旭区子育て広場連絡会の中で支援に携わる人たちへのスキルアップ研修を受講したいとの声があり、合同で研修会を行っている。
- ・ 横浜市の子育てタクシードライバー普及活動に協力して養成研修の実習受け入れを行い、幼児の動きを観察したり養育者のニーズを把握することができる機会を提供した。

2 養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。

- ・ 養育者の「こんなことをやってみたい」を具体的に実現するために企画や運営に協力し、子育て中でも、子育て中だからこそできることを応援した。(ひなママ企画)
- ・ ひなたぼっこわくわくフェスティバルにマルシェやワークショップ出店してくれたのは、全員が現・元利用者であった。拠点を通じて利用者の活躍の場を提供することができたまた、現役の養育者に元養育者が活躍する姿を見てもらうことができた。
- ・ 利用者自身が参加しているサークルの周知に積極的に協力した。
- ・ 地域のお祭りや防災訓練への参加を呼び掛けたり自治会の役割について話す機会を設け、地域とのつながりや共助が大切であることを伝えた。
- ・ 養育者の居住地付近で開催されている地域サロンなどを紹介し、身近な応援団がいることを伝えた。
- ・ 拠点でボランティアや子育てタクシードライバーの実習をしている方に養育者に向けて活動についての話をしてもらい、取り組みの紹介を行った。ジュニアボランティアとの交流や中学校の授業に親子で参加してもらい、学生との交流を通して乳幼児とふれあう大切な機会を提供できることを実感してもらった。

3 広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。

- ・ 親と子のつどいの広場と一緒に区民まつりに出展し、子育て支援の必要性を市民に伝えた。
- ・ リサイクルマーケットを開催し、養育者や地域の方に出店してもらった。出店者と来場者とのコミュニケーションを通じて子育て家庭同士、子育て家庭と地域の交流の場となった。
- ・ 地域の方や小中学生、高校生大学生に向けてボランティア募集のチラシを作成し、HP や地域回覧で周知を行った。ボランティアとしての活動内容を明確にし、子育て支援についての理解を深められるような体制を整えたい。

4 これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。 ・ 中学生の職業体験、高校・大学生の実習を積極的に受け入れた。近隣の小・中学校の授業にも協力し、自分自身の親子関係や子育てについて学ぶ機会を共有した。 ・ パパDAY やパパ向けプログラムを設け、父子の時間を楽しむ機会を提供した。 ・ プレパパ・プレママが参加できるプログラムを開催し、座学や実習、先輩パパ・ママとの交流を通して親になることを実感し、子どもがいる生活やパートナーとの関わり方について考える機会を設けた。
評価の理由(区)
1 地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができています ・ 子育て支援連絡会やサロン交流会等に参加し、地域のニーズを把握した上で学習会等のスキルアップ支援を行った。 ・ ボランティアグループの活動状況を共有し、新規人材の発掘や活動の場の共有を行った。 2 養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている ・ 子育て支援活動の希望者や新たな担い手の養成に向けた取り組みについて拠点へ確認し、助言、協力を行った。 ・ 区の事業等で把握した人材を拠点と情報共有したほか、養育者主体の取り組みについてもサポートを行った。 ・ ボランティアと養育者の双方のニーズを踏まえた活動の場の提供に向けて助言・協力を行う。 3 広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる ・ 拠点、区、主任児童委員と共に区民まつりへ出展し、子育て支援の必要性を啓発した。また、「わくわくフェスティバル」等、拠点が開催する市民向けの啓発活動や企画に対し、助言と協力を行った。 4 これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている ・ 母子保健コーディネーターや助産師が拠点と連携し、妊娠期から学び合う機会や場の充実を図った。 ・ 両親教室等の講座をオンラインで発信した際、それを拠点にも共有した。
拠点事業としての成果と課題
(成果) ・ 地域人材の発掘や育成に関して、ボランティアや当事者発の活動が活性化を図ることができた。 ・ 妊娠期からの講座を充実させたことにより、次世代を育成する基盤を整備することができた。 (課題) ・ 子育て支援の担い手が高齢化している地域もあるため、より幅広い世代が地域活動に気軽に参加できる仕組みづくりや、活動者のモチベーション維持に向けた働きかけを検討する必要がある。 ・ ボランティアの活動内容を明確に提示し、継続につながるようサポートする。 ・ 地域で子育て家庭を見守る雰囲気を作るためにそとあそびなどでボランティアの方にも参加してもらっているが、担い手が増えず、地域活動については今後も検討していく。

振り返りの視点

- ア 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。かつ新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- イ 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- ウ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- エ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- オ 活動希望を丁寧を受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- カ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- キ 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ク これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・「拠点から遠い」「コロナ禍で外出したくない」等の声を受け、入会説明会のオンライン化を進め実行に移していく必要がある。 ・横浜子育てサポートシステムの認知度は向上しているが、内容を知らず利用していない人や身内以外の人に預けることに不安を抱える人がいることから、より横浜子育てサポートシステムが安心して利用ができるサービスであることを周知していく必要がある。 ・依頼内容が多様化している中で安全・安心なコーディネートができるように、さらに区と拠点で協力して取り組む必要がある。	A	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A
☆			

評価の理由(法人)

会員数

	R6	R7
利用会員	516	573
提供会員	118	110
両方会員	23	22

利用件数

	R6	R7
利用件数	2,233	2,811

主な依頼内容(R7)

	幼稚園 ・保育園送迎	小学校 ・学童送迎	習い事の送迎	会員宅預かり	その他(ひろ ば預かり等)	合計
件数	936	263	518	797	297	2,811

会員交流会 参加者

	R6	R7
参加人数	14	26

1 子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている

- ・ 拠点のネットワーク機能を生かして、多くの区民へ周知している。横浜子育てサポートシステムのチラシや入会説明会の案内をホームページ等で周知したり、提供・両方会員予定者研修会の時期に合わせて広報よこはま旭区版に特集を掲載したこと、二俣川駅のチラシ配布をしたことで提供会員の新規開拓につながった。
- ・ サテライトと連携し、ボランティアで活動している方に提供会員として登録してもらった。

2 養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている

- ・ 病気や出産等で来所が困難な方には訪問による入会説明(R7 3回)入会説明会の日程が合わない方には個別の入会説明(R7 97回)を実施した。
- ・ 出張ひろば(3か所)、親と子のつどいの広場(3か所)で拠点から遠い方向への集団出張説明会(R7 11回)を行った。
- ・ 預かりを利用したことのない親子のためにひろば預かりを実施したことで親子の不安が解消され気軽に利用するきっかけとなった。
- ・ R6より拠点システムの運用が開始されたことに伴い、24時間いつでも依頼ができるようになり利用促進につながった。
- ・ 子サポ de あずかりおためし券の利用を周知したことや一時預かりとの併用を通して預かりへのハードルが下がるよう努めた。
- ・ ひろばスタッフに利用の流れを説明し、利用者からの問い合わせに対応できるようにした。

3 会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている

- ・ 利用会員から依頼内容を丁寧に聞き取り子どもを預ける不安や疑問を取り除いている。また、提供会員がスムーズに活動できるように依頼内容を詳しく伝え、事前打ち合わせにコーディネーターが同席するなど配慮をしている。
- ・ コーディネート後も毎月の活動報告書を丁寧に確認し、気になる状況があれば提供会員にこまめに連絡を入れて、依頼内容と活動内容に相違がなかったか確認している。
- ・ 会員交流会ではコーディネーターを含め会員同士が顔の見える関係を築き、各々の活動についての情報交換や地域ぐるみで支え合う意義について共有する機会となっている。
- ・ 安心安全な活動を継続して行えるよう、提供・両方会員向けに救命救急の研修を行った。
- ・ 会員間で安心して活動してもらえるよう、特に提供・両方会員向け交流会を設け(R7 3回)会員同士の交流、スタッフと顔の見える関係作りをした。

4 養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている

- ・ 利用会員から依頼内容を聞き取り、専門的な対応が必要と思われる利用者は都度区と連携し対応している。さらに月一回の行政定例会で共有しながら進めている。
- ・ 子育てに関する相談があれば、必要に応じて横浜子育てパートナーが同席し情報提供を行っている。

評価の理由(区)

1 子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている

- ・ 区役所内の掲示板、乳幼児健診、広報よこはまあさひ区版等、多様なツールや機会を活用して横浜子育てサポートシステム事業の普及啓発に取り組んだ。
- ・ 地域ケアプラザコーディネーター会議等の場を活用し、提供会員数拡大に向けた周知の協力依頼を行った。
- ・ 二俣川駅にて子育てサポートシステムの周知を行う等提供会員獲得のため、地域への周知を行った。

2 養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている

- ・ 横浜子育てサポートシステム事業の周知に関する企画等を拠点と積極的に行い、助言や協力をした。
- ・ 母子健康手帳交付時や家庭訪問等で把握した養育者のニーズを踏まえて、適宜、横浜子育てサポートシステム事業の紹介を行った。
- ・ 地域の子育て関係者にも周知啓発を行い、本事業のタイムリーな活用を促す取り組みを行った。

3 会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている

- ・ 行政定例会毎に援助活動について確認し、助言、協力を行った。
- ・ 予定者研修やコーディネーター研修の企画等も拠点と共に行ったが、提供会員の高齢化や担い手不足への対応については引き続き課題となっている。

4 養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている

- ・ 養育者のニーズを踏まえて、コーディネーターから連絡を受けた場合は支援方法について助言、協力を行った。
- ・ 特別な配慮が必要になったケースは他機関との連絡調整を行った。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・ 区と拠点が連携して多様な場での周知を図った結果、子育て世代の認知度が進み、利用を希望する子育て家庭への適切なコーディネートにつなげることができている。
- ・ 提供・両方会員の交流会を多く設け、会員同士の交流とスタッフとも顔の見える関係ができた。

(課題)

- ・ ニーズが多様化、増加する一方で、提供会員の不足や負担増が見受けられる。
- ・ 提供会員の新規開拓に向けた効果的な周知方法や、会員が安心して活動を継続できるようなフォローアップ体制をさらに強化する必要があると考える。
- ・ 利用者支援事業と連携しながら他機関による預かり等の支援状況の情報収集に努め、横浜子育てサポートシステム事業のリソースを適切に分配していく必要がある。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を含め、利用したい人が利用に結びつくための工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに安心安全な活動できるよう、丁寧なコーディネートができているか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や追加のフォロー等を行っているか。
- カ 活動における事故防止のための講習、個人情報取扱いに関する注意喚起など、会員への安全対策をはかっているか。
- キ 提供・両方会員が安心・安全な活動を継続して行えるよう研修会等の取組がなされているか。
- ク 会員が活動の意義を感じられ、会員間の親睦を深め信頼関係の構築のため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ケ 援助活動の調整時や会員の声から把握した子育てのニーズを地域子育て支援拠点としての事業に活かしているか（新たな事業の実施や事業の見直しなど）
- コ 利用相談の内容に応じて、子育てサポートシステム以外のサービス等の情報提供や関係機関に適切につないでいるか。
- サ 専門対応が必要と考えられる相談については、専門機関に適切につないでいるか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	・ 養育者や妊婦が多様な方法で相談ができるようオンラインでの個別相談を行っていく。 ・ コロナ禍であっても多様な養育者が安心してお互いに情報交換できる機会を定期的に設けていく。 ・ 父親からの相談も増えているため父親同士が学び合える場などの父親に向けた支援の機会を設けていく。	A	A
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		A	A
☆			

評価の理由(法人)

(主なデータ)

横浜子育てパートナーへの相談

		R6	R7
相談件数		733	919
相談件数内訳	本拠点	341	553
	サテライト	392	366

相談内容(上位3項目) 重複あり (%)

	R6		R7	
	本拠点	サテライト	本拠点	サテライト
1	親自身 36.1	子どもの生活 22.5	親自身 71.1	子どもの生活 25.8
2	子どもの発育・発達 35.2	子どもの発育・発達 19.4	子どもの発育・発達 33.6	子どもの発育・発達 15.6
3	子どもの生活 30.2	親自身 19.1	子どもの生活 33.1	親自身 14.1

相談方法(%)

	R6		R7	
	本拠点	サテライト	本拠点	サテライト
電話	12.6	8.2	3.4	3.8
面接(居場所)	85.6	87.0	89.5	89.9
面接(相談室)	1.2	4.1	3.3	4.6
出張	0	0.5	3.1	1.4

1 拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている

- ・ 関係機関と連携し、地域へのアウトリーチ支援や交流事業を実施した。相談者のニーズに応じた情報提供を行うため、区役所事業の見学を行った。
- ・ 地域交流コーディネーター会議や地域の子育て支援関係団体の会議へ参加し、拠点事業の説明や横浜子育てパートナーの周知に努めた。
- ・ ホームページに「なんでもトーク」を開設し、誰もが相談しやすい環境作りを行っている。
- ・ 母子保健コーディネーターと連携し、妊娠期から拠点とつながるしくみづくりを継続した。(プレママ拠点見学会)
- ・ 妊娠期事業のプログラムにおいて、産前から気軽に相談できる場であることを具体的な内容とともに示し、利用可能な制度・サービスの情報提供を行いながら、敷居の低い相談機関として事業の周知を図った。

2 相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている

- ・ 相談者の話を丁寧に聴き、安心して相談できる環境を整えつつ、主体性を尊重した個別支援を行った。必要に応じて相談室を活用しながら相談対応を行った。また、サテライトでは、「ちょこっとお預かり」を利用して、母子分離した状況で、ゆっくりと相談を受けられるよう配慮した。
- ・ 横浜子育てサポートシステムから相談を受けた時は、個別説明・事前打ち合わせに同席するなどし、養育者が安心して相談できるような体制ができている。内容に応じて区や関係機関と連携をとるなど、適切な対応を行った。
- ・ 子どもの発育・発達や生活に関すること、親自身による相談が多いことから、研修参加や専門相談員との連携を通じて知識向上に努めた。
- ・ 拠点へ来所しづらい養育者へ向けて、地域サロンや出張ひろば等へ出向き、出張相談を開設した。
- ・ 公認心理師・言語聴覚士等による専門プログラムを実施し、発達や育児に不安を抱える養育者が相談できる場を提供するとともに、必要に応じて関係機関と連携した。
- ・ 保育園入園希望者の増加を踏まえ、保育・教育コンシェルジュと連携して相談できる環境を整備した。
- ・ 集団参加に不安のある家庭に対し「あひるクラブ」を実施し、小集団で安心して過ごせる場を提供した。また、「パパとあひるクラブ」を土日に開催し、父親支援につなげた。(年間2回)
- ・ 「双子ちゃん・三つ子ちゃんあつまれ」、ひとり親家庭向けの「ひとり親サロン」、外国籍家庭向けの「外国人の親子あつまれ」等、プログラムを実施し、必要に応じて関係機関や制度につなげ、子育て情報や地域資源の提供、当事者同士の交流機会を通して孤立予防と相談支援を行った。

3 子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている

- ・ 親と子のつどいの広場や地域サロンに出向き、顔の見える関係づくりを進めると共に、横浜子育てパートナーの役割周知を行った。
- ・ 妊娠期からの関係構築を目的とし、「ふれパパふれママ講座」、「プレママ拠点見学会」、妊婦・家族向け交流プログラム「マタニティママ&パパあつまれ」等を実施し、早期の相談につながる機会を提供した。
- ・ 地域サロン交流会に参加し、地域の子育て家庭の見守りや情報共有を行った。
- ・ 区保健師、西部地域療育センター、二俣川地域ケアプラザと連携し、「あひるクラブ」を継続的に実施した。

その中で、養育者同士や先輩ママとお互いに情報交換できる場を設けた。交流の中で安心して話せる関係や仲間づくりの機会を提供した。また、子どもが集団生活へ移行した後も継続的な支援につながるよう、親の居場所(めばえ会の親の会)につながった先輩ママに協力を依頼し、プログラムへの参加・協力を得た。あひるクラブ立ち上げ当初から関わる先輩ママにも、ボランティアとして支えてもらいながら取り組みを進めた。

- ・ 旭区社会福祉協議会の「ひとり親家庭応援 DAY」に参加し、令和7年度から協力体制を継続しながら、地域の支援状況や当事者の課題把握に努めた。
- ・ ひとり親サロンでは、地域のパントリーや物資支援を行う生活クラブの場を活用し、ひとり親支援の専門職(ひとり親サポートよこはま)を招いて制度説明や情報提供を実施した。
- ・ 関係機関で行っている支援やサービスの情報収集に努めた。
- ・ 地域連携事業として、近隣中学校の家庭科授業において「乳幼児ふれあい学習」に協力した。拠点を利用した親子の協力を得て、養育者との交流や赤ちゃんとのふれあい、赤ちゃん人形を用いてのおむつ交換・着替え体験、また妊婦体験などを行い、中学生が乳幼児への理解を深め、命の大切さや子育てへの関心を育む機会を提供した。

評価の理由(区)

1 拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている

- ・ 毎月の広報を活用した周知のほか、こんにちは赤ちゃん訪問員や母子訪問員等の行政定例会等で事業説明の場を設け利用者支援事業の理解の促進に努めた。
- ・ 乳幼児健診や赤ちゃん教室等でも、拠点への来所が難しい方に向けて電話相談の活用を周知した。
- ・ 旭区こども家庭相談のパンフレットにて横浜子育てパートナーの紹介を掲載することや、広報に拠点内での横浜子育てパートナー相談について掲載することで横浜子育てパートナーの周知を行った。

2 相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている

- ・ 他の相談機関に関する情報収集に協力するとともに、行政定例会で相談事例を共有し、必要なケースは区と情報共有を行った。
- ・ 利用者支援事業新任研修として区の事業見学等を調整し、社会資源の理解を促す取り組みを行った。

3 子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている

- ・ 子育て支援に関わる人たちの連絡会等に横浜子育てパートナーが参加し、利用者支援事業の理解の促進に向けた協力を行った。
- ・ サロン交流会や広場連絡会等の運営協力を行い、関係機関との関係づくりや関係強化、役割分担ができるようバックアップをした。
- ・ 母子保健コーディネーター・助産師と拠点の連絡会を定期的に行い、区と拠点で把握している妊婦の状況について情報共有を行った。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・ 様々な機関や乳幼児健診、家庭訪問の場を通じて利用者支援事業の周知を徹底し、潜在的なニーズを持つ養育者を早期に発見し、拠点の利用者支援事業へとつなぐ体制を整えることができた。
- ・ ひろば連絡会等を通じて他機関との連携も図ることができている。
- ・ サテライトが開設され、地域における支援体制が強化された。
- ・ 妊娠期から拠点を訪れる機会を創出するため、プレパパプレママ向けの講座を毎月開催し、参加者からは高い満足度が得られている。また、新たに第1子のみだけでなく、第2子以降の妊婦とその家族向けの交流プログラムを実施した。妊娠期に抱えやすい不安の軽減と、拠点を利用する乳児家庭との交流機会の提供につなげることができ、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を提供した。
- ・ 多胎家庭、ひとり親家庭、発達に不安を抱える家庭など、当事者同士がつながる場を提供した。
- ・ 専門職との協働により、より専門性の高い支援を提供できる環境が整えられた。

(課題)

- ・ 多様な生活背景を持つ家庭への支援にあたっては、関係機関との連携をさらに密にし、地域へのアウトリーチを強化する等、早期対応と継続的な見守りができる包括的な支援ネットワークを一層強化していく必要がある。

振り返りの視点

ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。

イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。

エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。

オ 拠点内でパートナーの役割を理解し、日頃から相談者を拠点内でつなぎ合うことについて、お互いの役割分担を明確にしたうえで、相談対応・利用支援を行っているか。相談者の相談内容に応じて継続対応やつなぐ必要性を判断し、対応しているか。

カ 専門的な対応を要する相談に対して、相談内容と相談者のニーズを踏まえ、速やかに関係機関への紹介・仲介・支援依頼を行うなど、適切な対応をとっているか。

キ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら、フォローをしているか。

ク 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点で振り返りや検討を行っているか。

ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。

コ 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。

サ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整、提案や新たな創出につなげているか。